

「ジュニアサイバーボランティアチーム」大賞



情報モラルなどの教材開発

県内 佐賀市の完成度を競う「さがプログラミングアワード2022」(佐賀新聞社主催、公共デザインイニシアティブ共催、学映システム特別協賛)の本選が3日、佐賀市のメイトプラザ佐賀であった。発表した計16組のうち、高学年の部の大賞に輝いた「ジュニアサイバーボランティアチーム」が、来年3月に東京で開催される全国大会への出場権を得た。



「ジュニアサイバーボランティアチーム」の(左から)上村龍平さん、谷川光陽さん、梅田梨名さん。佐賀市のメイトプラザ佐賀

低学年は「楽しい未来」、高学年は「理想的な未来」をテーマに、アイデアや実現を手助けするプログラミングを考えました。発表者は立案した理由や工夫などを説明した。発表時間は3分で、審査員からの質問にも答えた。開会式では、学映システム岡村祐臣社長らが出場者を激励

ユーザー視点の工夫発表

した。

ジュニアサイバーボランティアチームは、同じプログラミング教室の梅田梨名さん(北方小6年)、谷川光陽さん(鍋島小5年)、上村龍平さん(春日北小4年)の3人でつくる。梅田さんが防犯ボランティアの活動を祖母から聞いたのをきっかけに立案し、情報モラルとプログラミングの両方を学習できる教材を開発した。発表では、画面上の表示を何度も検証して見やすくするなど、ユーザー視点に立った工夫について紹介した。3人は「チームを組んで取り組めて楽しかった」と話した。

(志垣直哉)

他の受賞者は次の通り。(敬称略)

- 【低学年の部】大賞 小松桜来(巨勢小3年)▽準大賞 西村聡佑(新栄小3年)▽アイデア賞 吉村和花(赤松小3年)
 - 【高学年の部】準大賞 田中瑞貴(鏡山小4年)▽アイデア賞 吉村和時(赤松小5年)
 - 【プレゼン賞】加藤寿治郎(仁比山小6年)
- (12月24日付の特集面で詳報します)

